

「省人化」の未来像

私はA Iの利用は検索で「〇〇とは」問いかける位だが
若い人は「チャッピー君に相談」と言っているように
いろんな活用をしているようだ。

うちの会社でも
お客様の先（大手企業）からE D Iで来る図面データから
担当する部品を拾い出して、見積もるという入札業務を
A Iを使って自動化している
という具合にプロセスをA Iに行わせるようになった。

他にも納入データから請求書を作成するのに
仕入原価や納入価格を他のエクセルから拾い出して
請求書や利益額を含めた統計表を作成している。

これらは神経をすり減らす作業なので非常に疲れるが
A Iが実行してくれるのでチェックするだけで済んでおり
時間の有効活用と併せて「一挙両得」になっている。

このように実務に使えるようになって進歩したと喜んでいたら
先端企業ではA Iが作業し、A Iの管理者が日報をチェックし、
さらに、A Iが業務を監査する
と言う風な一種のA I自己完結型組織を作ったというのだ。

つまり、部長も課長も現場作業員も全部A Iが行なうとの事。

しかし、例えば、医薬品では
コロナ禍で関節リウマチ薬が治療薬に効くとA Iが発見したように
いろんな分野のデータベースから発見する
という事があるのだ。

つまり、人間は専門分野の視野を持つが、
A Iはデータベースが充実していれば視座を高めて
対象の領域外からも可能性を割り出す
という事が既に知られている。

確かに、専門家は研究する際は「視点」を絞っており
行き詰まって「視野」を広げても経験の範囲
ということになりがちなのだ。

つまり、検索するA I（作業）の報告（結果）を受けて
管理するA Iが別の指示を出すという構造なのだ。

先ほどの先端企業の場合も
ある組織の業務を分担して作業するA Iが報告する日報を
管理するA Iが分析した指示を出して作業させたり
さらに上層管理のA Iが「視座」を変える指示を出す
と言う風に階層毎にA Iがあり、業務A Iを含めて30以上
とのことだった。

これが進化すると
無人工場で作業を指示するA I（工員）が複数いて材料まで手配して
その成果報告を日報として管理A Iに渡して「異常管理」を行ない
高品質な製品が無人で作られる工場が実現
となりかねないのだ。

そして、マーケティング担当のA Iや研究開発のA Iと発展すれば
新製品開発までA Iが行なうようになるのだ。

ホンマ、「人」って、どこにいるのかと疑問になる。

少なくとも多くの職種がA Iに変わる時代が来ると言える。

まあ、身近な所でも無人販売などが多くの場所にあり
飲み物の自販機は、缶詰やペットボトルだけではなく
オレンジジュースを搾りたてで提供する機械や
A T Mやコンビニ端末で住民票などの自動化などと
いろんな無人化が進んでいる。

このように、身近な自販機関連の作業は
商品を補充する人と現金の補充と回収をする人がいれば

多くの自販機が販売しているので省人化に繋がっているのだ。

家庭内でも私のような一人暮らしでも
炊事・洗濯は家電がタイマーセットで仕上げてくれるし
掃除も床に物を置かないようにしておけばロボットがしてくれて
買い物は自分で安い店に出向いて買って来るが
食材も調理済みの物も多く、温風フライヤーで油落としできるし
焼き魚はレンジグリル器で煙を出さずにふっくら焼ける
という具合になっている。

このように公私にわたって「省人化」が進む時代になっており
従来型の若い人たちの仕事はドンドン機械化されているので
彼らの将来像に不安が残るという具合だが、
時代が「不安」を解消する事を信じていると思っている。